



インクルーシブ教育実践論

発達障がいをめぐる「いじめ問題」を考える

鳴門教育大学と連携授業を行いました！

開催日時：2026年1月20日(火) 13時00分～14時30分

実施方法：対面講義

講師：池田誠喜教授、小倉正義教授（鳴門教育大学）

陪席：岡村章司教授、小川修史教授

学部2年生130名を対象とした「いじめ防止論」（池田誠喜先生ご担当）において、小倉正義先生がゲストスピーカーとして登壇し、両先生で授業を実施していただきました。

事前に、本学で展開する「インクルーシブ科目」についての授業の目的を含めた概要を小倉先生にお伝えさせていただきました。講義と対話活動による構成、受講者同士による3～4名程度の短時間の話し合いの設定といった授業構造に加え、対話によって授業内容の理解を深め我が事として問題を捉えていくための仕掛けについて共有しました。

授業では最初に「発達障がいをめぐる、いじめ問題の予防と介入」をテーマに小倉先生から話題提供がありました。発達の多様性、発達障がいといじめの関連についての解説があった後、具体的な事例をもとにいじめの予防、発達障がいの子どもがSOSを出すことの困難性について学生が検討する演習がありました。加えて、いじめ加害者へのアプローチについて検討する機会も設けられまし

た。その後、池田先生や学生からの質問に小倉先生から回答いただきながら、内容の理解を深めていきました。

事後アンケートでは、「思考する機会が多かったか」という問いに対しては、118名（90.7%）、「授業の満足度」については121名（93.1%）が肯定的に評価しました。自由記述には、「具体的な事例を挙げて考えることで、いじめについてより深く考えることができた」「質疑応答の時間があり、将来教員としていじめに向き合い対応する上で大変参考となる話が聴けた」といった意見がみられました。また、「いじめかどうかを判断することの難しさを強く感じた」とともに「ユニバーサルデザインの視点を持って子どもたちが安心して過ごせる学校風土を築くことが、加害者も被害者も出さないための最善の予防策である」といったいじめ防止のための方略についての記述もみられました。今回の鳴門教育大学の先生方による授業を踏まえ、本学の「インクルーシブ科目」の汎用化について検討していきます。